

# Weekly Market Report

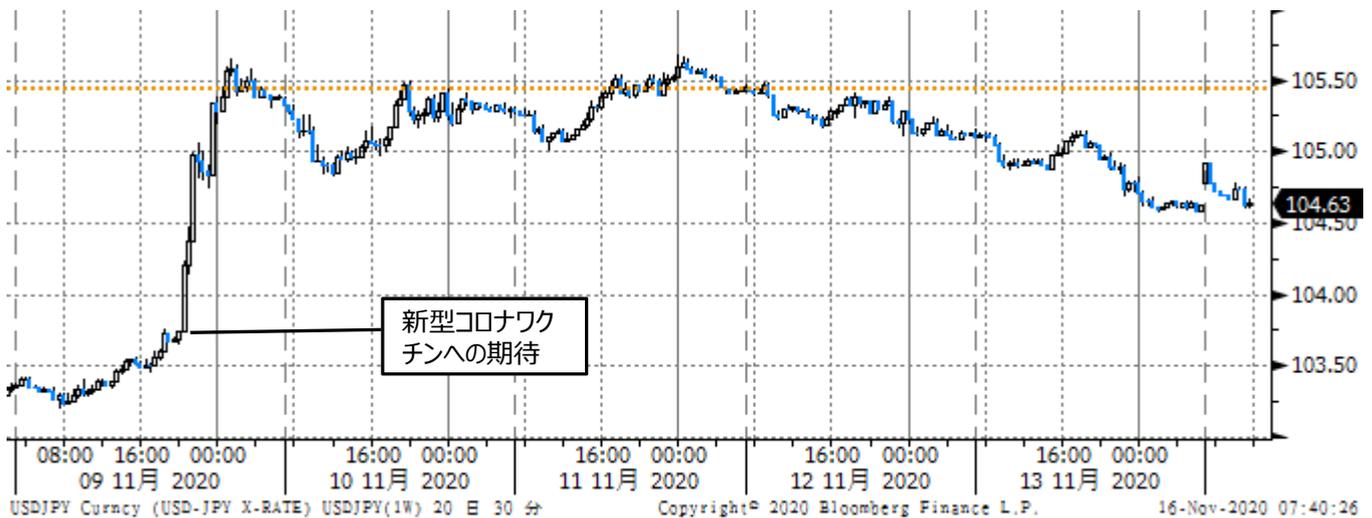
Nov 16, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

新型コロナウイルスの感染急拡大を受けたリスクオフに警戒

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

先週のドル円相場は8か月ぶりの安値水準から反発するも上値の重い展開。週初は米国大統領選においてバイデン候補勝利の見通しが強まったことでドルが全面安となりドル円は103.20円の安値を付けたが、米製薬大手のファイザーが開発中の新型コロナウイルスワクチンの感染防止効果が90%を超えたと発表されたことでドル円は大きく買い戻され、週中には105.68円の高値まで上昇した。しかし、ワクチンが一般に配布されるまでにはまだ時間がかかることや欧米での新型コロナウイルスの感染急拡大を受けてドル円の上値は抑えられる展開となっている。今週も新型コロナウイルスの感染急拡大が最大の懸念材料。世界各地で再度ロックダウンや行動制限の動きがでていることで経済の回復が遅れるとの見方からドル円は上値の重い展開となりそうだ。米国の追加財政政策に進展が見られないことや英国とEUの通商交渉が難航していることもリスクオフ材料となってくる。経済指標としては火曜日の米国小売売上高が注目材料。  
(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
11/16(月)	(中国) 10月小売売上高 前年比	5.0%
11/17(火)	(米国) 10月小売売上高 前月比	0.5%
11/18(水)	(米国) 10月住宅着工件数 前月比	2.8%
11/20(金)	(日本) 10月消費者物価指数 前年比	-0.4%
11/20(金)	(英国) 10月小売売上高 前月比	-0.3%

### USD/JPY (5年間)



### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	103.50 - 106.00	ワクチン期待によるドル円上昇も一服したことで上値の重い地合いとなり、米経済指標の結果に左右される展開を予想。
山下航平	104.00 - 105.50	欧米でコロナウイルス感染が再拡大する一方、ワクチン実用化への期待感からドル買いを支える展開を予想。

## 2. 円金利相場概況

新型コロナウイルスのワクチン期待で長期金利は上昇し易い環境と予想。

### 10年国債金利と債券先物 (1週間の値動き)



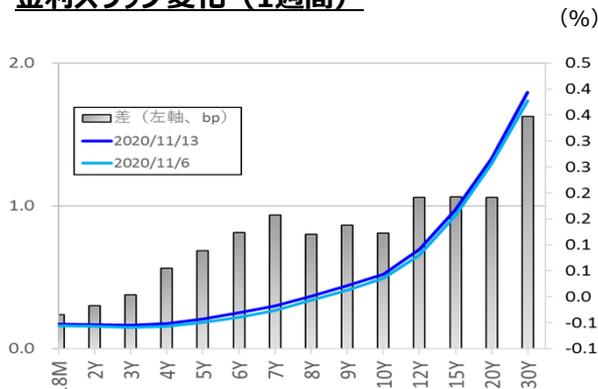
(出所) Bloomberg

### コメント

先週の長期金利は大統領選挙終了による安心感と、良好な米・雇用統計を受けて上昇方向でスタート。10日米国時間にファイザーとビオンテック社が開発する新型コロナウイルスワクチンが近くFDA（米国食品医薬品局）に承認されるとの期待が高まり、経済活動が活発になるとの見方から米長期金利が大きく上昇。本邦長期金利も連動して大きく上昇した。その後、ワクチンに対する期待感は一服し、米国の新型コロナ新規感染者数の急増によって警戒感が広がり、米長期金利低下に連動して本邦長期金利も低下した。現在、ワクチン期待もあって米長期金利に上昇圧力がかかり易いことから世界的に長期金利は上方向に反応し易い状況だが、日本国内ではある程度国債に対する需要も見込まれるため、上昇は限定的。ワクチン絡みのヘッドラインで国内金利がどの程度上方向で反応するかが今後の注目である。

(市場営業部/高橋)

### 金利スワップ変化 (1週間)



### 5年円金利スワップ推移 (5年間)



### 今週のレンジ予想 (10年国債利回り)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.00% - 0.05%	円金利は、コロナ再拡大や経済活動停滞懸念を背景とした安全資産需要により、底堅い推移を予想。米金利動向には要警戒。
廣瀬友絵	0.00% - 0.04%	来年度の国債発行計画について過度の増発懸念は後退し、20年債入札も需要が見込まれ、底堅く推移する展開か。

### 3. 今週のトピックス

#### ポンド相場アップデート

再ロックダウンに伴う経済的逆風も引き続き重石に。

#### BOE金融政策

新型コロナウイルスの感染者数が拡大する中、今回のMPC（金融政策委員会）にて国債の1500億ポンドの追加購入を決定、市場予想の1000億ポンドを上回る規模の量的緩和を公表した。また、これまでは「国債および投資適格級の社債」を対象に資産購入を実施していたが、今回は「社債」については200億ポンドを維持としており、国債購入という量的緩和の側面は拡充するとともに、信用緩和の側面（社債購入）は市場の落ち着きもあって、いったん収束させた形と見られる。政策金利は0.1%で維持にて全会一致で決定。また、記者会見の質疑応答にて、ベイリー総裁は当面は資産買入れとフォワードガイダンスの組み合わせを活用する方針を説明したほか、緩和の強化に備えて今後も必要に応じて柔軟に対応する姿勢を示した。

#### 回復モメンタムが鈍化

英国の10月製造業・サービス業PMIは【図2】で示す通りそれぞれ53.3、52.3と、2ヵ月連続で低下。好不況の判断の分かれ目となる「50」以上は維持したものの、新型コロナウイルス流行の第2波の到来により、企業部門でも回復の勢いが鈍化していることを示唆。9月以降、小売・娯楽への人出も減少傾向に転じるなど、サービス業を中心に回復が鈍化。また、11月5日から4週間、イングランド全域でのロックダウン実施が決定しており、英景気が再び腰折れする恐れ。加えて、雇用・所得環境の悪化も個人消費の重石に。これまで申請件数が就業者数の3割弱にも及ぶ休業者所得支援制度により、失業率は小幅な上昇にとどまってきたものの、同政策は10月末で終了。代替策は存在するものの、規模は縮小。英企業の採用マインドは低迷が続いており、11月以降の雇用環境の悪化は避けられない可能性が高い。

#### 今後のポンド相場展開

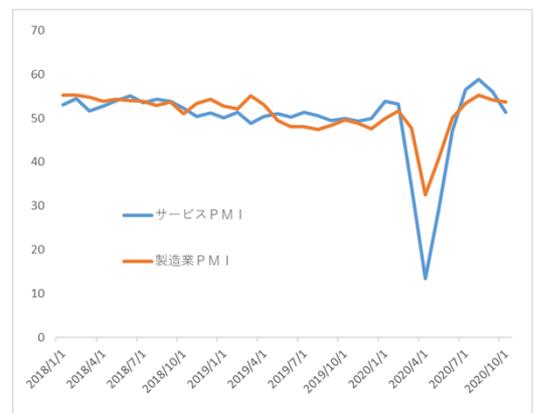
ポンドは10月、軟調な展開が続いていたが、11月に入り、反発を見せている【図3】。一つは米大統領選を一旦はバイデン民主党候補が優勢という形で通過し、米国の政局不透明感の緩和と金融やハイテク企業への規制強化懸念が和らいだことなどが市場全体のリスクオンに寄与したことが背景にある。そしてもう一つが、英国とEUの通商協議に進展が見られていると市場がみている点だ。11月9日にスナク英財務相が協議について大きな進展があった、とコメントしたこと等がポンドの追い風となったが、実際の協議は不透明感が依然として根強く、「合意なき離脱」となる場合は、大失速は避けられず、9月安値、6月安値、5月安値を順次試していく展開を予想する。

(市場営業部/治久丸)

【図1】欧州主要国10年債利回り



【図2】製造業・サービス業PMI



【図3】ポンド相場 (対ドル、対円)



(出所 Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会